

# スマート プラチナ コミュニティ の実現に向けた検討視点

～三鷹市の取り組み事例からの考察～



2013年12月25日

三鷹市長 清原 慶子



## 「心のバリアフリー推進イベント」でバリアフリー映画上映



高齢者も障がい者も  
子どもたちも一緒に  
ユニバーサルデザイン  
を体感

映像

字幕

映像解説

バリアフリー社会についての相互理解

# 三鷹市の概要



2013年12月1日現在

○住民登録：180,385人

- 男：88,581人 女：91,804人
- 高齢者の占める割合 20.6%
- 平均寿命男性 80.6歳 女性 87.6歳  
(厚労省「平成22年 市区町村別平均寿命」より)

○世帯：89,534世帯

○最重要プロジェクト

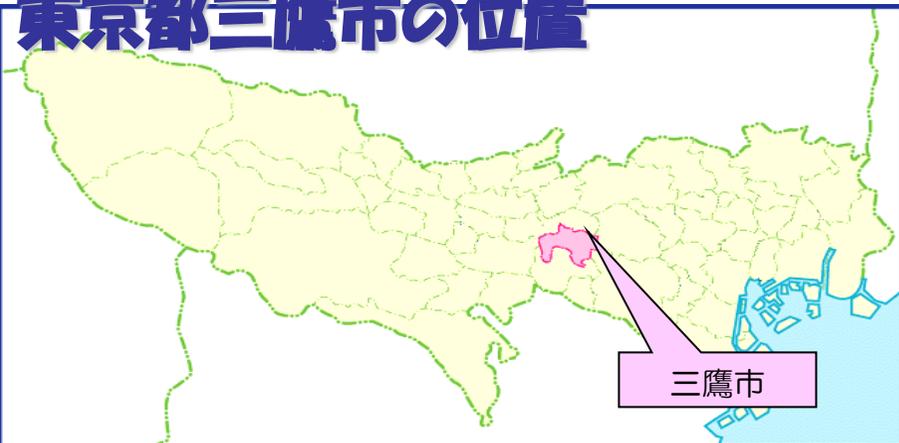
**都市再生**

**コミュニティ創生**

○緊急プロジェクト

**危機管理**

**東京都三鷹市の位置**



## 三鷹市コミュニティ創生プロジェクト

- コミュニティ住区に根差した健康づくり
- 安全安心・市民協働パトロール：2004～
- 地域ケアネットワーク事業：2004～  
7つのコミュニティ住区のうち5つで開設
- 災害時要援護者支援モデル事業：2007～
- 買物支援事業：2011本部立ち上げ
- 見守りネットワーク事業：2012～



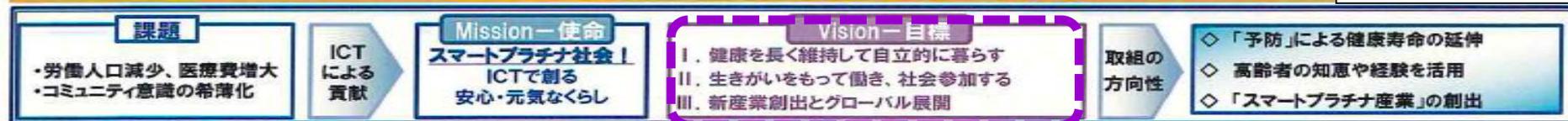
**25の団体及び事業者と協定を交わす**



# 「スマートプラチナ社会実現のためのビジョン」実現を目指して

ICT超高齢社会構  
想会議 報告書より

## 「スマートプラチナ社会」の実現



## 「スマートプラチナ社会」の実現

### ビジョンⅠ

健康を長く維持して自立的に暮らす

#### プロジェクト① ICT健康モデル（予防）の確立

- ▶ 健康寿命の延伸を実現する予防モデル確立のための大規模社会実証

#### プロジェクト② 医療情報連携基盤の全国展開

- ▶ 医療・介護・健康分野のデータを共有・活用するための基礎的インフラの整備・普及

#### プロジェクト③ 「ライフサポートビジネス」の創出

- ▶ 買物、配食、見守りなどの生活支援サービスを ICT で切れ目なく提供するモデルの構築

### ビジョンⅡ

生きがいをもって働き、社会参加する

#### プロジェクト④ ICTリテラシーの向上

- ▶ ICTの「学びの場」創設
- ▶ 「情報取得」から「情報発信・交流」へ

#### プロジェクト⑤ 新たなワークスタイルの実現

- ▶ テレワークなどを活用した現役世代とのベストミックス就労モデルの実証

#### プロジェクト⑥ ロボット×ICTの開発・実用化

- ▶ 身体的機能を補完する介護ロボット、コミュニケーションロボットなどの社会実証・ガイドライン策定

### ビジョンⅢ

超高齢社会に対応した新産業創出とグローバル展開

#### プロジェクト⑦ 「スマートプラチナ産業」の創出

- ▶ オープンイノベーションによる「シルバー」を越える新たな産業群の創出

#### プロジェクト⑧ グローバル展開と国際連携

- ▶ フロントランナーとして世界に貢献するためのICTシステムの標準化、各国との共同実証・連携

2020年に23兆円規模の新産業創出

## ◇健康を維持して自立的にくらす為のICT導入事例

総務省ICT街づくり推進事業 平成24年度実施地域の事例から

### プロジェクト①ICT健康モデル(予防)の確立

柏市 「健康データの見える化システム」

### プロジェクト②医療情報連携基盤の全国展開

豊田市 「あすけあいカード」

### プロジェクト③「ライフサポートビジネス」の創出

三鷹市 「買い物支援・傾聴・見守り」

課題: 他自治体への横展開、共通プラットフォームの確立

→平成25年度事業で実証予定

## プロジェクト① ICT健康モデル(予防)の確立

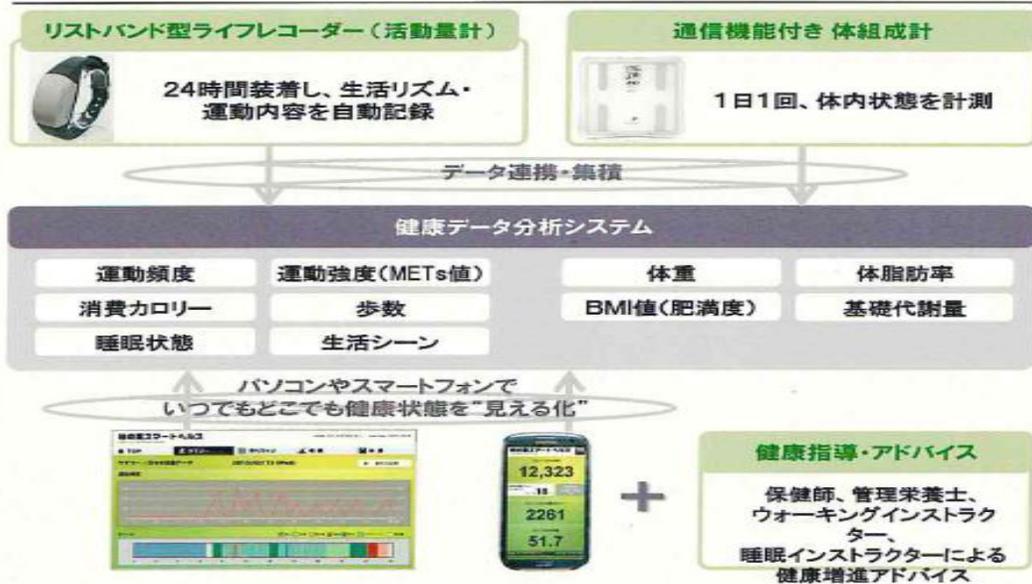
# 柏市「健康データの見える化システム」

### 取組① 概要

## 健康データの見える化システム / 住民の健康増進・疾病予防の推進

健康データの見える化システムを構築し、住民実証・アンケート調査を実施した。

### 構築システム(イメージ)



### 住民実証

社会実証期間	2013年2月2日(土)～3月10日(日)
参加モニター	柏の葉スマートシティの住民(柏の葉キャンパス駅周辺の居住者)を対象に参加者募集 A) 「ライフレコーダー」および「体組成計」の利用 + 健康イベントの参加 : 50名 B) 一般的な歩数計の利用 + 健康イベントの参加 : 50名 C) 一般的な歩数計の利用 : 50名



## プロジェクト② 医療情報連携基盤の全国展開

### 豊田市 「あすけあいカード」



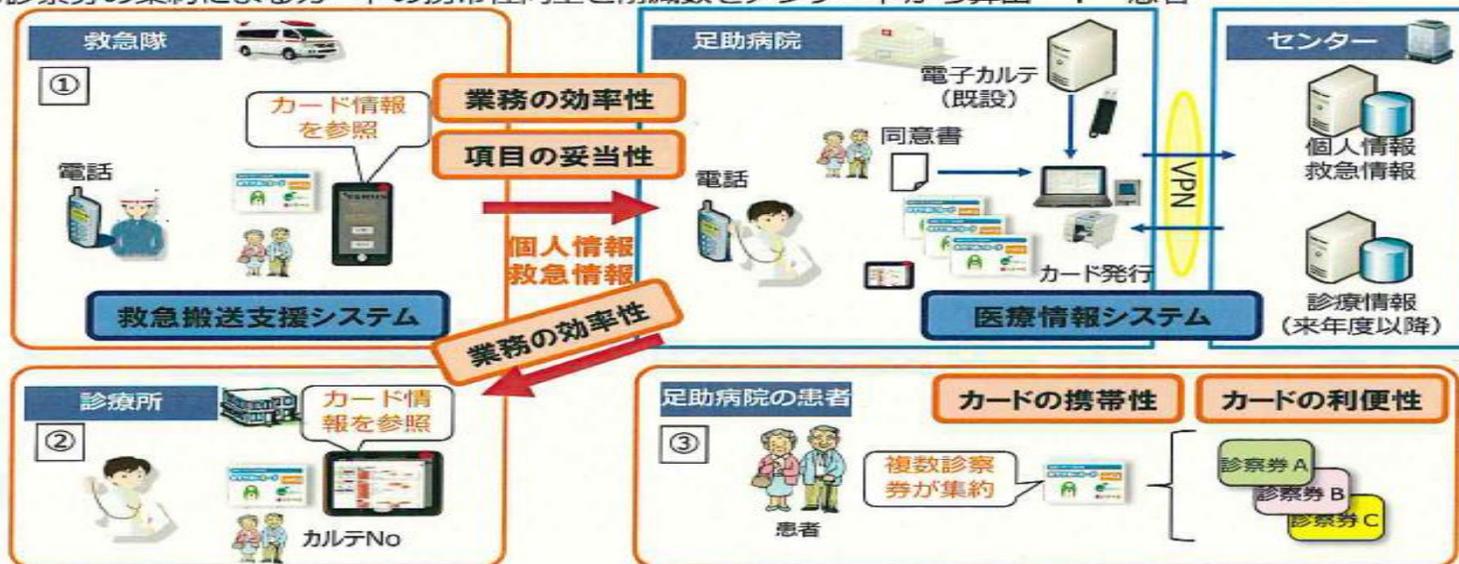
#### システム概要と実証内容

##### 【システム概要】

■ 足助病院の患者の同意に基づき、医療情報システムにて個人情報・救急情報をICカードに記載し、救急搬送支援システムの読取端末で参照する

##### 【実証内容】

- ① カードを持つことによる救急搬送時間の最適化と正確性の向上をヒアリングで検証：救急隊、病院の医師
- ② 医療情報連携を想定した業務時間の変化をヒアリングで検証：病院の医師、診療所の医師
- ③ 診察券の集約によるカードの携帯性向上と削減数をアンケートから算出：患者

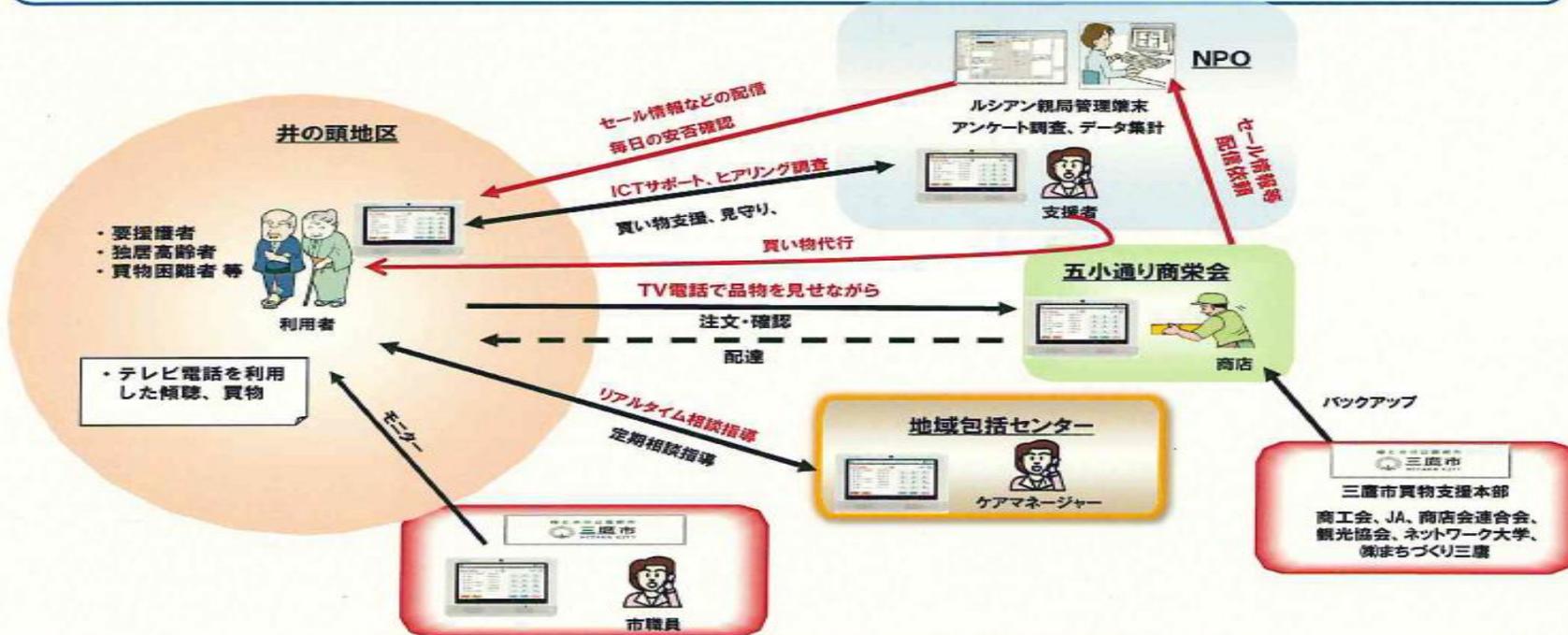


## プロジェクト③「ライフサポートビジネス」の創出

### 三鷹市 「買い物支援・傾聴・見守り」

#### ② IP告知システム 平常時イメージ（買物支援・傾聴活動・見守り）

- IP告知端末のTV電話機能にて商品を注文
- 注文時のTV電話におけるコミュニケーションや配達を通して、見守りも実施



# 課題 他自治体への横展開、共通プラットフォームの確立

街づくり推進事業を先進的に取り組んできた5団体が、医療・健康、見守り、交通、農業、物流等、様々な分野において連携し、本事業に取り組んだ成果は、あらゆる分野に普及展開が可能であり、日本の多くの地域が抱える複合的な課題を解決するための礎となる。



社会的要素

実証成果

技術的要素

同じ課題を抱える自治体が  
解決を図ることが可能な  
成功モデルの提供

街全体の活性化、  
効率的な街づくりの実現

他の地域への容易な  
水平展開、連携に寄与

住民の暮らしに新たな価値を提供

新たな社会サービスの創出

初期導入費用ハードルの解消  
(容易な普及展開)

成功モデル・共通プラットフォームの実現

## ◇生涯学習の推進

### (1) 超高齢社会の生涯学習を考える視点

- ・人生100年時代の到来

  - 健康で、自立的にくらすことの保障

- ・高学歴化の進展による自己実現意欲の顕在化

  - 生涯にわたって「地域」での居場所と

    - 自己実現できる「活動」を得ることの必要性

### (2) 三鷹市の目指す生涯学習

「ともに学び、学びを活かし、学びの成果や絆が地域に受け継がれていく心豊かな社会をつくる」「三鷹市生涯学習プラン2022」

- ・市民との協働による生涯学習の推進

- ・市民が自ら学習したことを地域にかえす

  - 「学びの循環」や「人のつながり」の創出

## (3) 学習者が主体となった生涯学習

### ●市民大学総合コース

→市民と職員の協働で構成された「企画委員会」  
が講座のテーマや講師を選定

→受講者 平均年齢 61.4歳  
最高齢者 89歳

### ●むらさき学苑(60歳以上の高齢者対象)

→受講者 平均年齢 75.2歳  
最高齢者 94歳

# 「知の共有の場」としての三鷹ネットワーク大学



国際基督教大学、杏林大学、国立天文台をはじめとする三鷹市内の法人に加えて、立教大学、法政大学、明治大学等の市外の大学を含む18の教育・研究機関と三鷹市がNPO法人を設立して運営している

## 「地域の新しい大学」をめざす「民学産公」協働の取り組み

正会員	賛助会員	合計
19団体	65団体	84団体

### ◆正会員（教育・研究機関と三鷹市）

アジア・アフリカ文化財団／亜細亜大学／杏林大学／国際基督教大学／国立天文台／首都大学東京／電気通信大学／東京学芸大学／東京工科大学／東京女子大学／東京農工大学／日商簿記三鷹福祉専門学校／日本獣医生命科学大学／日本女子体育大学／法政大学／明治大学／立教大学／ルーテル学院大学／三鷹市（合計19団体）

### ◆賛助会員の内訳

企業	32
協同組合	1
NPO法人	10
大学	5
財団法人	3
社団法人	5
その他法人	2
任意団体	4
個人	3
合計	65

（H25年9月30日現在）

### 受講登録者の年代

～20代	14.6%
30代	16.3%
40代	21.6%
50代	16.7%
60代	15.4%
70代～	13.4%
無回答	2.6%



## II.生きがいをもって働き、社会参加する



### ◇高齢者が地域社会の中で活躍する場づくり

#### (1)就労支援

##### ・三鷹いきいきプラス

→高齢者社会活動マッチング推進事業

##### ・NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹

→地域とシニアを元気にするコミュニティビジネス型

NPO(<http://www.svsoho.gr.jp/>)

##### ・起業およびSOHO支援

→みたか身の女起業塾(コミュニティビジネス創業)

→SOHO等ビジネス支援事業

株式会社まちづくり三鷹(TMO)

(<http://www.mitaka.ne.jp/business/>)

# ◇高齢者が地域社会の中で活躍する場づくり

4/16

## (2) 地域の自助・共助活動への参加の支援

### ・地域ケアネットワーク・見守りネットワーク

市民と市民の互支援(共助)の実現に向けて求められる  
能力と生涯学習によるボランティア養成

→傾聴ボランティア、地域福祉ファシリテーター、  
認知症サポーター などの養成

### ・脳卒中連携、認知症連携、在宅医療多職種連携

医師会、歯科医師会、薬剤師会、接骨師会、大学病院、  
地域包括センター、介護事業者、市役所等の協働

### ・災害時要援護のとりくみ

町会・自治会単位で、災害時の共助による避難援助者  
を登録。あらかじめ支援者を得られない人には  
ファシリテーターが相手を探す

# コミュニティ住区と地域ケアネットワーク

地域ケアネットワーク・にしみたか  
平成21年 2月設立

地域ケアネットワーク・井の頭  
平成16年10月設立

駅周辺地区

連雀・地域ケアネットワーク  
平成25年3月設立

地域ケアネットワーク・東部  
平成23年3月設立

大沢地区

地域ケアネットワーク・新川中原  
平成20年 7月設立

# 都市再生の事例：新川防災公園・多機能複合施設(仮称)整備事業 ⇒ コミュニティ創生の視点からも意義

## 【事業概要】

- 災害発生直後の一時避難場所機能を担う**防災公園**
- その地下にスポーツ施設を整備
- 耐震性に課題のある**老朽化した公共施設**などを集約化
- 防災センター機能**を加えた**多機能複合施設**を整備。
- 市道の拡幅に合わせ、**周辺道路の無電柱化整備**も実施



→市民の安全安心と市民サービスの向上を図る

◇協働による事業推進◇ 「都市再生」プロジェクトの中核的事業

- UR都市機構の防災公園街区整備事業の活用
- 関係団体・審議会等との意見交換、パブリックコメントの実施
- 検討委員会(関係団体や審議会などの代表者、無作為抽出による市民、公募市民などで構成)の設置

# 課題：管理運営におけるICT活用の視点

新川防災公園・多機能複合施設(仮称)整備事業の持つ  
複合施設としての特性を最大限に生かして

「施設間の連携・融合」

「施設全体の最適化」

により

多様化する市民ニーズに適切に対応する必要性

## ① 利用者の視点に立った市民サービスの提供

- ・空き時間等を活用した施設の相互利用、利用時間の拡充
- ・施設での活動を通じた市民間の交流促進
- ・施設情報の一元的な管理が可能な総合受付を設置
- ・ユニバーサルデザインの導入やICTの活用による利便性の向上

# 課題:「世代連携」の視点に立った管理運営とICT

## ② 各施設の機能連携を通じた新しい市民サービスの創造

### ・子どもの発育・発達支援に関する連携

～「子ども発達支援センター(仮称)」と「保健センター(仮称)」の連携～

情報の共有化と円滑な引継ぎを行うことにより、発育・発達に関して支援の必要な子どもの発見・相談・療育のワンストップサービスを実現

### ・スポーツを取り入れた健康づくりの推進

～「スポーツセンター(仮称)」と「保健センター(仮称)」の連携～

スポーツセンターの相談室において、個人の健康・体力状態に応じたプログラムを提供するなど効果的な相談体制を構築し、スポーツと健康づくりの連携を推進

## ③ 効率的な管理運営の実現

・施設の貸出等の手続きの統一

・休館日や開館時間の統一

・指定管理者制度の活用による施設の維持管理の一元化

# ICTを活かして平常時と緊急時ともに、人と人とをつなぐ

(1) 平常時: 「元気創造拠点」、災害時: 「安全安心拠点」

生涯学習センター、健康管理センター、総合スポーツセンター、高齢者センター、子ども発達支援センター、防災センター(仮称)を一体的に運営する新たな拠点として、新川防災公園・多機能複合施設(仮称)でICTをいかに活用するか?

(2) 「自助」「共助」のといくみの推進と「公助」の確保

総合的な健康づくり、生涯学習、安全安心、コミュニティ創生など高齢者を含む市民の生活を支える総合性

**ICTの活用**

(センサーネットワーク、ビッグデータ  
ロボット等)



**スマートフラクナ  
コミュニティの実現**

4:10